

入学してからもう9か月が経とうとしています。二学期には、多くの行事がありました。その中でも、飯森祭の応援合戦が一番心に残っています。

初めての飯森祭ということで不安でした。そんな中、応援団の幹部の募集がありました。ボクは、野球部に所属していて、大きな声を出すことや応援をすることが好きです。また、新しいことに挑戦してみようと思い、立候補し、そして、一年生の応援団長になりました。

初めは、三年生に声の出し方、動作の仕方、姿勢などを教えてもらいました。三年生の足を引っ張らないように必死で練習しました。次は、覚えたことを一年生に伝えていきました。一生懸命やってくれる友達や恥ずかしくてやってくれない友達など、初めは気持ちがばらばらで苦労しました。それでも、三年生の足を引っ張らないように全力で教えました。すると少しずつクラスがまとまり、いい雰囲気練習することができるようになりました。体育祭が近づくにつれて、声も動作もよくなってきました。

とうとう本番、全て出し切ろうと思い、全力で応援をしました。今までで市場にいいものが出せたと思います。結果は、優勝でした。仲間と優勝をつかみ取った喜びと「自分、がんばったな。」という気持ちがありました。そして、二学期の一番の思い出になりました。

一年生にとって、二学期は、中学校に慣れ初め、学習に部活にと、学校生活に集中できる時期となりました。その一方で、慣れから緊張感が緩むときも、正直ないとはいえませんでした。まだ、成長途中の自分たちは、先生や親から見たら、ささいな出来事にも集中力を欠いたり、流されてしまったりすることもありました。その意味でもこの冬休みは、これまでの中学校成果をしっかりと振り返ることができる大切な時間です。自分自身と向き合い、自分の課題や目指す目標などを確認し、新たな目標を定め、よりよい自分になれるようにしていきましょう。自分自身も三学期からは、自分で定めた目標を意識し、一年生のまとめをしっかりとやっていきます。

先日、僕たち2年生は、上級学校訪問に行ってきました。上級学校訪問とは、今まで名古屋分散研修として行ってきたものです。今年から、進路学習をより意識するため名前を変え、私立高校や専修学校について十分に学習できる形に変わりました。

今回の上級学校訪問には、青学年として大きな目標がありました。それは「積極的に行動すること」です。夏休みにあった職場体験。僕たちなりに一生懸命頑張り、大きなトラブルもなく体験を終えることができました。事業所からも「時間がきちんと守れて、礼儀正しい生徒が多かったです」と評価をいただきました。ただ、もう1つ、多くの事業所からあげられたことがあります。それは「もっと積極的に仕事をしてほしかった」という声でした。僕たちは、自分から動くことができていなかったのです。そこで、その反省をいかし、今回は、高校で積極的に質問をしたり、自分で考えて行動したりすることを学年の目標としました。迎えた当日。僕たちの班は、中京大学附属中京高等学校に訪問しました。中京高校は、部活動にとっても熱心な学校で、僕たちが訪問したときはテスト後だったようですが、トレーニングルームに行っている人が多くいました。設備もかなり充実していて、いつでも集中して練習ができる環境が整っていました。大会などで結果を残す部活が多い理由がよくわかりました。学習面では、国立大学や難関私立大学を目指す特進コースと、国際的で実践的な英語能力を着実に向上させる進学コースなどが設立されていました。生徒の進路や将来を考えたカリキュラムが準備されていることがわかりました。見学を終えてわかったことは、中京高校は文武両道が実現できている高校で、とても魅力的な学校だということでした。とても有意義な一日にすることができました。上級学校訪問では、多くのことを学ぶことができ、自分たちの進路についても真剣に考える、よいきっかけとなりました。しかし、一番大事なことが十分達成することができませんでした。それは、学年として目標にした「積極的に行動すること」です。質疑応答の場面で、高校の先生から質問をされたことがあったのですが、自分からその質問に対して返答することができませんでした。僕は班長でもあったので、自分から進んで返答すべきでした。事前にみんなで意識しようとしてきたのにうまくできなかったのも、残念な結果になってしまいました。積極性は、急に身に付くものではないので、日頃の生活や行事のなかで意識していかなければならないことを痛感しました。

僕たち青学年は、3学期が終わると、いよいよ学校を引っ張っていく立場になります。今の3年生の先輩方のように、僕たちが乙中の代表になり、後輩たちの見本とならなければなりません。そのためには、3学期をどう過ごすかがカギだと思います。つまり、上級学校訪問での失敗を挽回するのは、この3学期しかないです。合唱コンクールや3年生を送る会、卒業式など、すべての場面で青学年が一体となって、何事にも前向きに、積極的に取り組めるようにしていきたいです。そして、来年度、最高学年として恥ずかしくない存在になれるよう、成長できる3学期にしていきたいです。

最後の体育祭を最高のものにしたいと思い、僕は応援団長に立候補しました。しかし、実際に応援団長を行ってみると、初めはなかなかうまくいかないことばかりでした。なかなかみんなをまとめることができず、正直僕はとても焦っていました。クラスメイトや1・2年生に上手に思いが伝わらず、このままで体育祭に間に合うだろうかと不安になったこともあります。

でも、一緒に頑張ってくれた応援団の幹部の人たちや、周りのみんなのサポートのおかげで、本番までには、応援が段々と良くなっていくのを感じました。飯森祭週間に入ると、桃組全体の雰囲気さらに良くなり、全員が心から楽しそうに応援練習を行ってくれるようになり、団長の自分も「やりがい」を感じる瞬間が多くなってきました。

そして、本番の応援合戦では桃組は優勝することができました。夏休みから幹部のみんなと演舞を考え初め、2学期にはクラス全体、1・2年生の後輩のみんなと、ともにがんばって作り上げてきた応援で、優勝する事ができ、心の底から嬉しかったです。支えてくれた人たちのためにも、やりきったという達成感は一生涯忘れないと思います。

競技が始まる時や終わった後に、学年を超えて声を掛け合ったり、みんなで喜び合ったりしたこと。クラスや学年を超えて協力し合い、同じ目標に向かって、みんなと話し合ったり、競技をしたりしたこと。円陣を組んだり、みんなとハイタッチしたりと、学年を超えて本当に一致団結できたことを実感できた瞬間だと思います。体育祭を通して、クラスや色、学年が一つになりました。この絆を今後も大切にしていきたいです。

そして、応援し、支えてくれている多くの方々のために、また、自分自身が人として成長するために、残りの中学校生活を悔いの無いよう、一日一日を大切に、頑張っていきます。ご清聴ありがとうございました。